

平成25年度

袋井市公営企業会計決算審査意見書

(水道・病院事業会計(袋井市立聖隷袋井市民病院))

袋井市監査委員

写

袋 監 第 30 号
平成26年8月19日

袋井市長 原 田 英 之 様

袋井市監査委員 原 田 達 功
同 寺 井 紗 知 子

平成25年度 袋井市公営企業会計決算審査の意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、平成25年度袋井市公営企業会計(袋井市水道事業会計、袋井市病院事業会計(袋井市立聖隷袋井市民病院))決算及び附属書類について審査した結果、次のとおり意見書を提出する。

目 次

	ページ
審査の概要	
1 審査の対象	1
2 審査の期間	1
3 審査の方法	1
4 審査の結果	1
袋井市水道事業会計	
1 業務実績	2
2 予算の執行状況	3
3 経営の成績	4
4 財政状態	6
5 まとめ	8
袋井市病院事業会計(袋井市立聖隷袋井市民病院)	
1 業務実績	9
2 予算の執行状況	10
3 経営の成績	12
4 財政状態	13
5 まとめ	15

(注)

文中及び各表中の金額等の記述は、次の要領による。

- 1 文中及び各表中で用いる金額は千円単位で表示し、単位未満の数値は原則として四捨五入とし、一部調整のため切り上げ又は切り捨ててある。
- 2 文中及び各表中で表示した比率は、百分率で小数点以下第2位を四捨五入し、一部調整のため切り上げ又は切り捨ててある。なお、「0.0」の表示は、「0.05」未満の数値について小数点以下第2位を四捨五入した結果である。
- 3 文中及び各表中で△表示は、対比又は比較等がマイナスとなった表示である。

審 査 の 概 要

1 審査の対象

- (1) 平成25年度 袋井市水道事業会計決算
- (2) 平成25年度 袋井市病院事業会計(袋井市立聖隷袋井市民病院)決算

2 審査の期間

平成26年6月10日から平成26年6月27日まで

3 審査の方法

市長から提出された平成25年度の水道、病院両事業会計決算書及び附属書類が関係法令に準拠して作成され、経営成績及び財政状態について適正であるか確認するとともに、決算書と会計帳票、証拠書類との照合点検、関係職員から説明を聴取し、審査を実施した。

4 審査の結果

審査に付された平成25年度の水道、病院両事業会計決算書及び附属書類は、関係法令に準拠して作成されており、各計数に誤りはなく、その経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

以下、両事業会計別に経営成績及び財政状態について概要と所見を記述する。

袋井市水道事業会計

1 業務実績

(1) 給水人口の状況

平成25年度末における給水人口は、85,063人で前年に比べて979人増加している。

(2) 給水、配水の状況

給水、配水の状況は、次表のとおりである。

(単位: m³、%)

区 分	平成25年度	平成24年度	前年度対比
総配水量	11,446,025	11,529,325	99.3
総有収水量	10,324,315	10,397,146	99.3
無収水量	1,121,710	1,132,179	99.1
有収率	90.2	90.2	-
無収率	9.8	9.8	-

当年度の総配水量は11,446,025m³、総有収水量は10,324,315m³であり、これを前年度と比較すると、総配水量は83,300m³(0.7%)減少し、総有収水量は72,831m³(0.7%)減少している。

また、有収率については90.2%で、前年度に比べ増減はなかった。

なお、1m³当たりの供給単価、給水原価の推移をみると、次表のとおりである。

(単位: 円)

区 分	平成25年度	平成24年度
供給単価 (1m ³)	135.96	132.12
給水原価 (1m ³)	138.99	137.08
利 益 (1m ³)	△ 3.03	△ 4.96

$$\text{供給単価} = \frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$$

$$\text{給水原価} = \frac{\text{営業費用} + \text{営業外費用}}{\text{年間総有収水量}}$$

供給単価については、前年度に比べ3円84銭増加し、135円96銭となり、また、給水原価については、前年度に比べ1円91銭増加し、138円99銭となった。この結果、給水原価が供給単価を3円03銭上回った。

(3) 工事の状況

(消費税込、単位:円)

事業名	工事件数	工事金額	主な施工内容
施設改良工事	45件	263,389,350	配水管布設替等4,787.2m、基幹施設耐震化工事ほか

2 予算の執行状況

決算報告書(消費税込)による予算の執行状況をみると、次表のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

(単位:千円、%)

区分	予算額	決算額	執行率	前年度対比		
				増減額	増減率	
収入	1 水道事業収益	1,551,000	1,489,019	96.0	31,136	2.1
	1 営業収益	1,545,633	1,482,031	95.9	32,108	2.2
	2 営業外収益	5,365	6,988	130.3	△ 972	△ 12.2
	3 特別利益	2	0	0.0	0	-
支出	1 水道事業費用	1,551,000	1,492,045	96.2	16,733	1.1
	1 営業費用	1,412,756	1,367,421	96.8	17,886	1.3
	2 営業外費用	130,744	124,117	94.9	839	0.7
	3 特別損失	2,500	507	20.3	△ 1,992	△ 79.7
	4 予備費	5,000	0	0.0	0	-

ア 収入

水道事業収益は、予算額1,551,000千円に対し決算額1,489,019千円であり、執行率は96.0%となっている。

このうち営業収益は、予算額1,545,633千円に対し決算額1,482,031千円であり、執行率は95.9%である。

また、営業外収益は、予算額5,365千円に対し決算額6,988千円であり、執行率は130.3%である。

イ 支出

水道事業費用は、予算額1,551,000千円に対し決算額1,492,045千円であり、執行率は96.2%となっている。

このうち営業費用は、予算額1,412,756千円に対し決算額1,367,421千円であり、執行率は96.8%である。

また、営業外費用は、予算額130,744千円に対し決算額124,117千円であり、執行率は94.9%である。

特別損失は、予算額2,500千円に対し決算額507千円であり、執行率は20.3%である。

(2) 資本的収入及び支出

(単位:千円、%)

区 分		予 算 額	決 算 額	執行率	前年度対比	
					増減額	増減率
収 入	1 資本的収入	59,000	67,015	113.6	12,758	23.5
	1 加入分担金	29,624	35,175	118.7	7,990	29.4
	2 負担金	20,046	25,225	125.8	8,285	48.9
	3 補助金	9,330	6,615	70.9	△ 3,517	△ 34.7
支 出	1 資本的支出	600,500	567,618	94.5	△ 137,779	△ 19.5
	1 建設改良費	369,059	336,177	91.1	△ 144,823	△ 30.1
	2 企業債償還金	231,441	231,441	100.0	7,044	3.1

ア 収入

資本的収入は、予算額59,000千円に対し決算額67,015千円であり、執行率は113.6%である。

イ 支出

資本的支出は、予算額600,500千円に対し決算額567,618千円であり、執行率は94.5%である。

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額500,603千円は、過年度分損益勘定留保資金440,592千円、当年度分損益勘定留保資金46,903千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額13,108千円で補てんした。

3 経営の成績(損益計算書)

経営成績の推移(消費税抜)

最近3年間の経営成績の推移をみると、次表のとおりである。

(単位:千円、%)

区 分		平成25年度	平成24年度	平成23年度	前年度対比	
					25/24	24/23
経 常 収 支	収 益					
	営業収益	1,411,556	1,380,961	1,350,439	102.2	102.3
	営業外収益	6,988	7,961	7,845	87.8	101.5
	計(A)	1,418,544	1,388,922	1,358,284	102.1	102.3
	費 用					
	営業費用	1,332,245	1,315,395	1,293,347	101.3	101.7
営業外費用	102,771	109,884	118,357	93.5	92.8	
計(B)	1,435,016	1,425,279	1,411,704	100.7	101.0	
	経常利益(経常損失)(C) (A) - (B)	△ 16,472	△ 36,357	△ 53,420	45.3	68.1
	特別損失(D)	483	2,380	2,325	20.3	102.4

当年度純利益(E) (C-D)	△ 16,955	△ 38,737	△ 55,745	43.8	69.5
前年度繰越利益剰余金・欠損金(F)	0	0	41,717	0.0	皆減
当年度未処理欠損金(E+F)	△ 16,955	△ 38,737	△ 14,028	43.8	276.1

本年度の経常損失は16,472千円である。

営業収益は決算額1,411,556千円で、前年度に比べ30,595千円(2.2%)増加している。

これは、前年度に比べ、給水収益が29,952千円(2.2%)増加したことが主な要因である。

営業外収益は、決算額6,988千円で前年度に比べ973千円(12.2%)減少している。

これは、前年度に比べ、受取利息及び配当金が1,643千円(41.4%)減少したことが主な要因である。

営業費用は、決算額1,332,245千円で前年度に比べ16,850千円(1.3%)増加している。

これは、前年度に比べ、資産減耗費が5,440千円(37.0%)、総係費が7,404千円(6.8%)、減価償却費が4,076千円(0.9%)増加したことが主な要因である。

営業外費用は、決算額102,771千円で前年度に比べ7,113千円(6.5%)減少している。これは、支払利息及び企業債取扱諸費が7,044千円(6.5%)減少したことが主な要因である。

特別損失は、決算額483千円で前年度に比べ1,897千円(79.7%)減少となった。

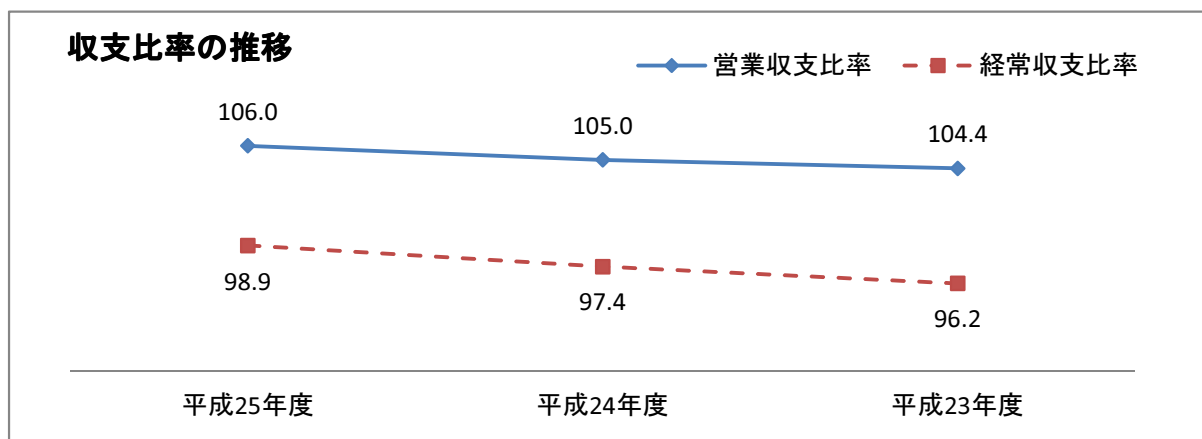
次に費用に対する収益の割合は、次表のとおりである。

(単位:%)

区 分	平成25年度	平成24年度	平成23年度	算 式
営業収支比率	106.0	105.0	104.4	営業収益/営業費用
経常収支比率	98.9	97.4	96.2	経常収益/経常費用

営業収支比率は、収益性を見る際の一つの指標であり、この比率が高いほど営業収益率が高いことを示している。

経常収支比率は、収益性を見る際の最も代表的な指標であるといわれており、この比率が高いほど経常収益率が高いことを示している。いずれの指標も100.0%を上回っていれば良好な経営状況といえる。本年度は前年度に比べ、営業収支比率は1.0ポイント、経常収支比率は1.5ポイント増加している。



4 財政状態(貸借対照表)

資産の部

(単位:千円、%)

科 目		平成25年度		平成24年度		
		金 額	構成比	金 額	構成比	
固 定 資 産	有 形 固 定 資 産	土 地	247,313	1.8	247,313	1.7
		建 物	401,593	2.9	386,224	2.7
		構 築 物	11,222,930	80.2	11,378,551	79.7
		機 械 及 び 装 置	397,560	2.8	408,597	2.9
		車 両 運 搬 具	2,974	0.0	3,826	0.0
		工 具 器 具 及 び 備 品	2,603	0.0	2,522	0.0
		計	12,274,973	87.7	12,427,033	87.0
	無 形 固 定 資 産	400	0.0	400	0.0	
	投 資	0	0.0	0	0.0	
	受 贈 財 産	427,684	3.1	441,513	3.1	
小 計	12,703,057	90.8	12,868,946	90.1		
流 動 資 産	現 金 預 金	1,186,998	8.5	1,311,518	9.2	
	未 収 金	85,734	0.6	85,909	0.6	
	貯 蔵 品	11,577	0.1	12,091	0.1	
	小 計	1,284,309	9.2	1,409,518	9.9	
繰 延 勘 定	開 発 費	464	0.0	2,444	0.0	
	小 計	464	0.0	2,444	0.0	
資 産 合 計		13,987,830	100.0	14,280,908	100.0	

負債・資本の部

科 目		平成25年度		平成24年度	
		金 額	構成比	金 額	構成比
固 定 負 債		72,285	0.5	67,228	0.5
流 動 負 債	営 業 未 払 金	62,922	0.5	111,451	0.8
	そ の 他 未 払 金	27,168	0.2	109,726	0.8
	未 払 消 費 税	11,307	0.1	3,931	0.0
	そ の 他 預 り 金	34,906	0.2	34,606	0.2
	小 計	136,303	1.0	259,714	1.8
負 債 合 計		208,588	1.5	326,942	2.3
資 本 金	自 己 資 本 金	2,477,586	17.7	2,477,586	17.4
	借 入 資 本 金	3,572,301	25.5	3,803,741	26.6
	小 計	6,049,887	43.2	6,281,327	44.0
剰 余 金	資 本 剰 余 金	7,260,485	51.9	7,186,813	50.3
	利 益 剰 余 金	468,870	3.4	485,826	3.4
	小 計	7,729,355	55.3	7,672,639	53.7
資 本 合 計		13,779,242	98.5	13,953,966	97.7
負 債 資 本 合 計		13,987,830	100.0	14,280,908	100.0

(1) 資産

資産の総額は13,987,830千円で、前年度に比べ293,078千円(2.1%)減少している。

ア 固定資産

固定資産は12,703,057千円で、前年度に比べ165,889千円(1.3%)減少している。
これは主に構築物が155,621千円(1.4%)減少したためである。

イ 流動資産

流動資産は1,284,309千円で、前年度に比べ125,209千円(8.9%)減少している。
これは主に、現金預金が124,520千円(9.5%)減少したためである。

ウ 繰延勘定

繰延勘定は464千円で、前年度に比べ1,980千円(81.0%)減少している。
これは開発費が減少したためである。

(2) 負債

負債の総額は208,588千円で、前年度に比べ118,354千円(36.2%)減少している。

ア 固定負債

固定負債は72,285千円で、前年度に比べ5,057千円(7.5%)増加している。

イ 流動負債

流動負債は136,303千円で、前年度に比べ123,411千円(47.5%)減少している。
これは主に、営業未払金が48,529千円(43.5%)、その他未払金が82,558千円(75.2%)減少したためである。

(3) 資本

資本の総額は13,779,242千円で、前年度に比べ174,724千円(1.3%)減少している。

ア 資本金

資本金は6,049,887千円で、前年度に比べ231,440千円(3.7%)減少している。
これは借入資本金が231,440千円(6.1%)減少したためである。

イ 剰余金

剰余金は7,729,355千円で、前年度に比べ56,716千円(0.7%)増加している。
これは、資本剰余金が73,672千円(1.0%)増加し、利益剰余金が16,956千円(3.5%)減少したためである。

資本剰余金は、工事負担金、補助金、加入分担金等が増加したものであり、利益剰余金は、平成24年度決算における未処理欠損金を建設改良積立金から補てんを行ったことにより、建設改良積立金が減少したためである。

5 ま と め

本年度の給水状況をみると、総配水量11,446,025^mで前年度に比べ83,300^m (0.7%)減少し、遠州水道からの受水量も8,483,352^mで、前年度に比べ17,446^m (0.2%)減少した。また、総有収水量は10,324,315^mで、前年度に比べ72,831^m (0.7%)の減少となり、有収率は90.2%で前年度と同様であった。

経営状況(税抜)については、水道事業収益が1,418,544千円で前年度に比べ29,622千円(2.1%)増加している。これは、料金改定の経過措置が昨年度で終了したことに伴い、給水収益が29,952千円増加したことが主な要因である。また、水道事業費用については、1,435,499千円で前年度に比べ7,840千円(0.5%)増加している。これは、受水費が21,472千円増加したことが主な要因である。

当年度純損失は、16,955千円となり前年度に比べ21,782千円の減少となった。なお、1^m当たりの供給単価が給水原価を3円03銭下回ったことから利益率は減少している。

本年度の水道事業経営については、経営活動の成果を示す収益率の主な指標のうち、経常収支比率は98.9%であり、前年度に比べ1.5ポイント上回り、営業収支比率も106.0%で1.0ポイント上回った。

財政状態については、資産合計は13,987,830千円で前年度に比べ293,078千円(2.1%)減少した。これに対して、負債合計は208,588千円で、前年度に比べ118,354千円(36.2%)減少し、資本合計は13,779,242千円で前年度に比べ174,724千円(1.3%)減少した。利益剰余金に、当年度未処理欠損金として16,955千円が計上された。

次に工事の状況については、配水系統再編にかかる配水管布設工事、都市計画道路、下水道事業に伴う配水管布設替工事、地震対策による基幹施設耐震化工事等45件263,389千円が実施された。

以上が、決算審査の概要である。

平成22年度の水道料金の改定に伴い、市内同一の料金体系となった。また、料金改定に伴う経過措置は平成24年度で終了し、本年度からは料金改定に伴う効果が表れている。この結果、給水収益は前年度より増収となったが、総配水量、総有収水量ともに減少している。

次に、建設改良工事については、袋井市上水道事業基本計画に掲げた5つの目標の1つである「いつでも安定した水道」の実現を推進するため、計画に基づいて本年度は老朽管更新事業や基幹施設である袋井第2水源の耐震化工事を実施した。

今後は、人口減少や節水意識の向上や節水機器の普及等により、給水収益の増加を見込むのは難しくなるといえる。その一方で、安定給水の確保のため災害時緊急時にも対応できるよう、老朽管の布設替等施設整備を計画的に行うことが必要であり、このためには多額の費用が見込まれる。

これらのことから、今後もますます水道事業の経営環境は厳しい状況になるものと予想されるが、市民にとって安全安心な水の安定供給は必要不可欠であり、水道料金等懇話会による経営改善の意見等を反映されるとともに、今後も計画的な事業の推進と経営の健全化に努められたい。

袋井市病院事業会計(袋井市立聖隷袋井市民病院)

1 業務実績

(1) 診療科別利用患者数の状況

入院 (単位:人、%)

区 分	平成25年6月1日～平成26年3月31日	
	延患者数	一日平均患者数
内 科	11	0.1
脳 神 経 外 科	8,037	26.4
合 計	8,048	26.5
病 床 利 用 率	52.9	-

※ 稼働病床は、一般病床 50床。 診療日数 304日。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{年間許可病床数}} \times 100$$

外来 (単位:人、%)

区 分	平成25年6月1日～平成26年3月31日	
	延患者数	一日平均患者数
内 科	1,574	7.8
脳 神 経 外 科	3,054	15.1
合 計	4,628	22.9

※ 診療日数 202日。

本年度における受診した延患者数は、入院8,048人、外来4,628人、合計12,676人となった。

(2) 医師、看護師等の職員の状況

(単位:人)

区 分	医 師	医療技術員	看護師等	事務職員等	その他の職員	計	備 考
会計開始時 平成25年5月1日	0	0	0	1	0	1	
平成25年度末	0	0	0	1	0	1	

なお、医師、看護師等職員については、指定管理者である(福)聖隷福祉事業団で対応している。

(3) 建設改良事業の状況

ア 建設改良工事

工事名	業者名	支出額 (消費税込、単位:円)	着工年月日	竣工年月日
本館改修工事(その1)	塚本建設(株)	31,984,050	H25.5.9	H25.10.4
本館改修工事(その2)	(株)内田建設	7,471,800	H25.6.10	H25.9.10
受水槽撤去新設工事	(有)鈴武設備工業所	54,848,850	H25.6.10	H25.10.2
南側進入路兼工事車輛道路整備工事	(株)内田建設	23,686,950	H25.7.23	H26.1.17
合 計		117,991,650		

イ 委託業務

委託名	委託先	支出額 (消費税込、単位:円)	着工年月日	工事進捗率
西館増改修工事等 工事管理業務委託	(福)聖隷福祉事業団	257,072,200	H25.5.9	55%

ウ 保存工事(1件100万円以上)

工事名	業者名	支出額 (消費税込、単位:円)	着工年月日	竣工年月日
磁気共鳴断層撮影装置(MRI)修理	GEヘルスケア・ジャパン(株)	4,893,000	H25.9.18	H25.11.27
全身用X線コンピュータ断層撮影装置(CT)修理	GEヘルスケア・ジャパン(株)	2,106,930	H26.1.6	H26.1.9
全身用X線コンピュータ断層撮影装置(CT)修理	GEヘルスケア・ジャパン(株)	4,331,250	H25.11.7	H26.1.31
合 計		11,331,180		

エ 器械備品の取得状況(1件300万円以上)

契約年月日	契約の内容	購入価格 (消費税込、単位:円)	契約の相手先
H25.5.16	デジタル超音波画像診断装置一式	7,224,000	協和医科器械(株)
H25.5.22	デジタル式X線TVシステム一式	18,900,000	中北薬品(株)
H25.7.26	全自動錠剤分包機一式	15,744,750	(株)ワールド・メディカル・サプライ
H26.2.20	生化学自動分析装置	7,873,950	中北薬品(株)
H26.2.20	調剤支援システム一式	4,704,000	(株)ワールド・メディカル・サプライ
H26.2.20	電動リモートコントロールベット一式	7,245,000	(株)ケース・メディカル・サプライ
H26.2.20	人工呼吸器一式	4,987,500	協和医科器械(株)
H26.2.20	デジタル脳波計	3,919,650	(株)アクセス
H26.2.20	骨密度測定装置	6,720,000	(有)ユーヨーメディカル

2 予算の執行状況

決算報告書(消費税込)による予算の執行状況を見ると、次表のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

(単位:千円、%)

区 分	予 算 額	決 算 額	執行率	
収 入	1 病院事業収益	616,000	561,792	91.2
	1 医 業 収 益	244,310	204,503	83.7
	2 医業外収益	371,690	357,289	96.1
支 出	1 病院事業費用	616,000	550,018	89.3
	1 医 業 費 用	608,317	549,581	90.3
	2 医業外費用	7,683	437	5.7

ア 収入

病院事業収益は、予算額616,000千円に対し決算額561,792千円であり、執行率は91.2%となっている。

このうち医業収益は、予算額244,310千円に対し決算額204,503千円であり、執行率は83.7%である。

また、医業外収益は、予算額371,690千円に対し決算額357,289千円であり、執行率は96.1%である。

イ 支出

病院事業費用は、予算額616,000千円に対し決算額550,018千円であり、執行率は89.3%となっている。

このうち医業費用は、予算額608,317千円に対し決算額549,581千円であり、執行率は90.3%である。

また、医業外費用は予算額7,683千円に対し決算額437千円であり、執行率は5.7%である。

(2) 資本的収入及び支出

(単位:千円、%)

区 分		予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	執行率
収 入	1 資本的収入	915,000	669,700	0	73.2
	1 企業債	810,000	564,700	0	69.7
	2 国県補助金	80,000	80,000	0	100.0
	3 出資金	25,000	25,000	0	100.0
支 出	1 資本的支出	915,000	509,637	392,928	55.7
	1 建設改良費	915,000	509,637	392,928	55.7

なお、資本的支出における翌年度繰越額は、地方公営企業法第26条第1項の規定による繰越額である。

ア 収入

資本的収入は、予算額915,000千円に対し決算額669,700千円であり、執行率は73.2%となっている。

イ 支出

資本的支出は、予算額915,000千円に対し決算額509,637千円であり、執行率は55.7%である。

3 経営の成績(損益計算書)

経営成績(消費税抜)は、次表のとおりである。

(単位:千円、%)

区 分		平成25年度	
経 常 収 支	収	医 業 収 益	204,231
	益	医 業 外 収 益	357,281
		計(A)	561,512
	費 用	医 業 費 用	543,943
		医 業 外 費 用	6,423
		計(B)	550,366
	経常利益(経常損失)(C) (A) - (B)	11,146	
	特別利益(D)	0	
	特別損失(E)	0	
	当年度純利益(純損失)(F) (C+D-E)	11,146	
	前年度繰越利益剰余金(G)	0	
	当年度未処分利益剰余金	11,146	

本年度の経常利益は、11,146千円である。

医業収益の決算額は204,231千円、医業費用は543,943千円となっている。

医業外収益の決算額は357,281千円、医業外費用は6,423千円となっている。

次に費用に対する収益の割合は、次表のとおりである。

(単位:%)

区 分	平成25年度	算 式
医業収支比率	37.5	医業収益/医業費用
経常収支比率	102.0	経常収益/経常費用

医業収支比率は、収益性を見る際の一つの指標であり、この比率が高いほど医業収益率が高いことを示している。

経常収支比率は、収益性を見る際の最も代表的な指標であるといわれており、この比率が高いほど経常収益率が高いことを示している。いずれの指標も100.0%を上回っていれば、良好な経営状況といえる。

4 財政状態(貸借対照表)

資産の部

(単位:千円、%)

科 目		平成25年度期首		平成25年度期末		
		金 額	構成比	金 額	構成比	
固 定 資 産	有 形 固 定 資 産	建 物	205,132	84.4	219,167	19.7
		構 築 物	14	0.0	91,084	8.2
		器 械 備 品	4,294	1.8	121,807	11.0
		建 設 仮 勘 定	33,495	13.8	278,333	25.0
		計	242,935	100.0	710,391	63.9
	無 形 固 定 資 産	0	0.0	0	0.0	
	小 計	242,935	100.0	710,391	63.9	
流 動 資 産		現 金 預 金	0	0.0	14,902	1.4
		未 収 金	0	0.0	362,738	32.6
		小 計	0	0.0	377,640	34.0
繰 延 勘 定		控除対象外消費税	0	0.0	23,611	2.1
		小 計	0	0.0	23,611	2.1
資 産 合 計		242,935	100.0	1,111,642	100.0	

負債・資本の部

(単位:千円、%)

科 目		平成25年度期首		平成25年度期末		
		金 額	構成比	金 額	構成比	
固 定 負 債		0	0.0	0	0.0	
流 動 負 債		未 払 金	0	0.0	187,855	16.9
		預 り 金	0	0.0	7	0.0
		小 計	0	0.0	187,862	16.9
負 債 合 計		0	0.0	187,862	16.9	
資 本 金		自 己 資 本 金	0	0.0	25,000	2.3
		借 入 資 本 金	23,400	9.6	588,100	52.9
		小 計	23,400	9.6	613,100	55.2
剰 余 金		資 本 剰 余 金	219,535	90.4	299,534	26.9
		利 益 剰 余 金	0	0.0	11,146	1.0
		小 計	219,535	90.4	310,680	27.9
資 本 合 計		242,935	100.0	923,780	83.1	
負 債 資 本 合 計		242,935	100.0	1,111,642	100.0	

(1) 資産

資産の総額は、1,111,642千円で、期首に比べ868,707千円(357.6%)増加している。
主なものを科目別にみると、次のとおりである。

ア 固定資産

固定資産は、710,391千円で期首に比べ467,456千円(192.4%)増加している。これは、療養病床及び回復期リハビリテーション病床の段階的開院に向け、今年度中に行った西館増改修工事や周辺整備工事に伴い、建設仮勘定が244,838千円、建物が14,035千円、構築物が91,070千円増加したことと、診療環境の充実のため器械備品が117,513千円増加したためである。

イ 流動資産

流動資産は、377,640千円で期首に比べ皆増している。
これは事業開始に伴い、未収金が362,738千円、現金預金が14,902千円増加したためである。

ウ 繰延勘定

繰延勘定は、23,611千円で期首に比べ皆増している。
これは、当年度分において発生した資本的収支における控除対象外消費税額である。

(2) 負債

負債の総額は、187,862千円で期首に比べ皆増している。
これは、主に未払金187,855千円である。

(3) 資本

資本の総額は、923,780千円で期首に比べ680,845千円(280.3%)増加している。

ア 資本金

資本金は、613,100千円で期首に比べ589,700千円(2,520.1%)増加している。
これは、一般会計出資金による自己資本金が25,000千円増加したこと、及び、企業債借入による借入資本金が564,700千円増加したためである。

イ 剰余金

剰余金は310,680千円で、期首に比べ91,145千円(41.5%)増加している。これは、国県補助金収入により資本剰余金が79,999千円増加したことと、当年度純利益11,146千円の計上により当年度未処分利益剰余金が11,146千円皆増したためである。

5 ま と め

本会計は、聖隷袋井市民病院が平成25年5月1日に開設され初年度の決算となり、本年度の業務は、5月1日から平成26年3月31日までの11ヶ月である。

病院の診療業務は、6月1日から一般病床50床、入院・外来診療ともに内科、脳神経外科の2科体制で保険診療を開始した。

本年度の実績をみると、入院は延患者数が8,048人、病床利用率は52.9%であり、外来は延患者数が4,628人であった。

経営状況(税抜)については、病院事業収益が561,512千円で、病院事業費用は550,366千円となり、当年度純利益は11,146千円となった。

財政状態については、資産が1,111,642千円で期首に比べ868,707千円(357.6%)増加した。負債合計は187,862千円で、期首に比べ皆増し、資本合計は923,780千円で期首に比べ680,845千円(280.3%)増加した。

資本的収支の状況については、資本的収入は669,700千円であった。これは、西館増改修工事等や医療機器購入に係る企業債564,700千円、地域医療再生推進事業に係る国県補助金80,000千円、一般会計からの出資金25,000千円である。

また、資本的支出は485,398千円であった。これは、西館増改修工事等工事管理業務委託料や受水槽新設撤去工事等の施設改良費357,211千円、医療機器整備に伴う資産購入費128,187千円である。

以上が、決算審査の概要である。

聖隷袋井市民病院は、本市の病院運営を指定管理者制度により社会福祉法人聖隷福祉事業団に委託し、旧袋井市民病院の施設を利活用して開設された。

当院は、総合健康センターの医療分野を担う施設として、中東遠総合医療センターや地域の開業医、介護施設等と連携した医療の提供が求められており、今後療養病床や回復期リハビリテーション病床の開設が計画されていることから、医師や看護師の確保とともに、医療機器等の整備に多額な事業費が見込まれている。

本年度は、開院初年度であることから、入院・外来の患者数、収益ともに計画を下回ったが、指定管理者と連携して医業経営の分析等を行い、効率的な健全経営に努められるとともに、地域医療への貢献に取り組まれない。